

まずは自己紹介をお願いします

土田穂聖（つちだとしまさ）です。お寺では、「穂聖（おんしょう）」と呼ばれています。年齢は24歳でお坊さんの中では若手ですね。明王寺では、広報の仕事を担当しています。また、現在は京都の三十三間堂でお勤めもしています。

お坊さんを志したきっかけはなんでしたか？

当時の動機としては、「勉強がしたくなかった」というのが一番でしたね。でも、叡山学院でお坊さんの勉強をする中で、仏教や最澄の教えに面白さを感じ、「あ、この道もありだな」と感じました。

何か変わるきっかけとなったエピソードとかあったんですか？

僕は、元々人間に生じる上下関係に疑問を持っていたんですね。みんな対等なのになと思って。ある日、「天台様式」というものを学びました。天台様式とは、人が仏を拜む際に仏様と同じ目線になる様に本堂などは設計されています。これは、人と仏には上下な無く対等であるという意味があって、存在が違っただけなんだと知った時に僕の中の疑問が少し解けた様で「もっと（この道を）色々知りたいな」と思いましたね。



お坊さんの仕事をしていて面白いと思うことはありましたか？

ん〜、僕たちは人とお話をすることも立派な仕事なんですよ。例えば、修学旅行生がお寺に来て生徒と何気ないことを話す。もちろん、悩みを聞いたりもしますが、何気ない話からいろんな人と関わりを持てるのもこの仕事の楽しさですね。

冒頭、明王寺で広報をしていますとおっしゃっていましたが、明王寺のお仕事はどのようなことをしていますか？

現在、明王寺ではホームページとSNS（Twitter、Instagram）でお寺の情報発信を行っています。



◆土田穂聖（つちだおんしょう）24歳
明王寺で3代揃って僧侶を勤める。お寺では広報担当。
HP: <https://seiryozan-myououji.com>
Instagram : seiryozan_myououji
Twitter : shiga_myououji

最先端ですね（笑）きっかけは何でしたか？

一番はお坊さんのメッセージを発信したかったんです。三十三間堂などは集客しなくても人が来るし、その都度いろんな人にお坊さんのメッセージを伝えることができるんですけど、明王寺では厳しいところがあったんですね。だから、幅広い人にメッセージを発信するのにSNSなどは有効だと知っていたので、これを機会に始めてみようと思ったんです。

何かSNSの利用者から反応はありましたか？

コメントを頂いたりはありますね。SNSをやっていることは、皆さんお坊さんと話す機会が少ないのかな？と思いましたね。僕らも皆さんと同じ生活をしているので、身近なことも発信しますしもっと気軽に話しかけて欲しいですね（笑）

明王寺の知って欲しいことなどはありますか？

磯尾の人はお寺のことは大体知っていると思うので、あえて言うなら僕の事ですかね（笑）お寺にいるとどうしても祖父が先に出て、次に親が出てなので僕が皆さんの前に出ることってほぼ無いんですよ。だから、自分のことを知ってもらいたいという意味も含めて、SNSでは自分の思いを発信しています。実は話したいこといっぱいあるんですよ（笑）

最後に、この磯尾の魅力と明王寺の今後の展望を教えてください。

魅力としては、「人との繋がりが濃いところ」ですかね。京都なんかはすれ違う人は知らない人だけですけど、磯尾は知ってる人ばかりやし、その繋がりが結構重要やと思うんですよ。今後の展望としては、お寺って、本来は地域の集い場なんですよ。だから、人が集まって何かしたいとかであれば使ってもらいたし、僕はお寺という場所を開放的なものにしたいと思っています。

甲賀★ムラづくりLABO 磯尾活動だより「手手〜ShuShu〜」

Vol.3

令和2年（2020年）10月15日

本日より、磯尾区を盛り上げるために活動する「甲賀★ムラづくりLABO」が不定期に発行する広報誌です。どなたでもお気軽にお読みください！

「甲賀★ムラづくりLABO」は引き続き活動を続けます！

滋賀県の公益財団法人の地域プロデューサー育成目的の活動「おうみ未来塾」での出会いをきっかけに、甲賀市甲南町磯尾区を拠点に、「甲賀★ムラづくりLABO」として活動をしています。

2019年12月におうみ未来塾を卒業し、今年も継続して活動を…と考えている矢先に、新型コロナウイルスの感染拡大が…

予防のために活動を縮小していましたが、感染予防対策を徹底し、今後も活動を続けていくことに決めました。

皆様、今後とも宜しくお願い致します！



岩附神社で八朔祭を見学しました！



今年は灯籠に「疫病退散」や「コロナ撲滅」など今年らしい願いがたくさん書かれました。

灯籠の中を覗くと、なんとロウソクの台は全て茄子になっていました。なぜ茄子なのかを聞いたところ「昔から茄子やから分かんない」とのことでした。不思議ですね。30分ほど滞在していたところ、何人か磯尾の方が神社に訪れてきました。

毎年、9月1日に開催です。来年もたくさんの方に見て頂きたい行事だと思いました。

9月1日(火)18時から岩附神社で行われた八朔祭の見学に行きました。

八朔祭は、下磯尾の奥出組が昔から行なっていた行事の様です。皆さんは知ってましたでしょうか？

これまでは、奥出組が細々とおこなっていた行事ですが今年は8月の常会で配布された磯尾使りに案内が書かれていました。

なので、カメラを持参し、灯籠を撮影しようと思学にいきました。

岩附神社に到着すると、参道にたくさんの灯籠が並べてあり、幻想的でした。



恒例の植樹会に参加しました



3月下旬に毎年恒例になってきました、磯尾村おこしの会さんの植樹会に参加してきました。今年は、紫陽花をメインに岩附神社付近に植樹を行いました。一昨年、植えたサクラやモミジは2mを超えしっかり地面に根付いてくれていました。

磯尾村おこしの会さんは、「磯尾の歴史や景観を保護育成し、磯尾の住む人達が自分の住む地域に誇りを持って、広く多くの人に知ってもらい磯尾を訪れてもらえるような村づくりをする」という行動指針があります。

近年はSNSの普及もあり、岩附神社はちょっとした写真スポットにもなっています。また、9月には岩附神社に自治振興会の案内板が設置されました。

少しずつですが、里山の風景を残す磯尾に注目が集まっている気がします。

【井口 博 様にご提供いただきました。ありがとうございます。】

上磯尾で、今年も作業してますよ！



昨年から上磯尾の前谷の一面をお借りし、農作業を行っています。今年は、ひまわりに加え枝豆も少し植えてみました。週に何回か草引きなどの作業をしていますので、お気軽にお立ち寄りください。また、磯尾里山農場でも今年から新しく休耕田を畑とし、南瓜や薩摩芋の試作をされていました。山本が溝切りの合間に肥料やり等のお手伝いもさせていただきました。「南瓜や薩摩芋を小さい子に収穫体験させてあげたい」などの声もあり、とても勉強になりました。

甲南中部自治振興会さんにお邪魔してきました

先日は、自治振興会の地域カルテが完成したので拝見させて頂きました。

地域カルテとは、甲南中部学区の地域データを集計したものであり、そこから地域課題の糸口を掴むためのカルテとなっています。カルテにも書かれていましたが、磯尾は高齢化が進み地域課題が多いことが現状です。データを集計することも大事だなと感じました。

甲南中部自治振興会さんでは、昨年からの地域の歴史や文化を肌で感じてもらうとウォーキング案内板を各地区に設置されるなど地域資源の発信に力を入れておられます。

センターは、旧甲南役場へ移動しましたがお気軽にお立ち寄りくださいとのこと！

滋賀県立大学の教授らと地域診断法を実践！



6月下旬にメンバーの2人が滋賀県立大学の教授らと磯尾地区で地域診断法のワークショップを実施しました。これは、文部科学省と厚生労働省の指定講座に認められた「近江環地域再生学座」のプログラムであり、地域活動を行なう人への人材育成プログラムとなっています。（詳しくは、「近江環地域再生学座」で検索してください）

今回は、私たち2名は学生として、「未来に継承したいもの」をテーマにワークショップを行ないました。学生らと郷土資料を読み、地域を散策し、大学で模造紙にたくさんの地域の魅力を書き出しました。私たちが出した未来にしたいものは、「無従谷（むじゅうこく）が育んだ歴史と人のつながり」となりました。

磯尾は、谷が多く、その谷を利用して、古くから農業を営み、人との繋がりを作ってきました。上磯尾では現在も谷の名前を呼び圃場（ほじょう）を管理をしています。また、下磯尾では、忍者のルーツともなった山伏の文化が細々と現代まで引き継がれて、これらの2つの要素は他の地域には無い磯尾独自の魅力であり、後世に継承すべき財産だとまとめることができました。

メンバーコラム 第3回

「世界でたったひとつのこの地域で何が出来るのか？」

大阪での仕事を辞め、この地域に帰ってきて3年目になりました。父の代わりに「でぼけ」に出動させてもらったりし、少しずつ地域の皆さんに顔を覚えてきてもらえたかな？と感じている次第です。

ここ2年程、磯尾に所謂「よそ者」と呼ばれる地域外の人達に入ってもらっています。皆さんは磯尾の「里山の風景」にとっても感動されます。僕も「嶽山と上磯尾の風景」がとても好きです。この里山を好きになった方達と昨年「甲賀ムラづくりLABO」という任意団体を作り、細々とこの地域を継承していく為には何が出来るのか？を日々試行錯誤しています。

この「瓦版」も私たちの活動の一環で、地域の日々の出来事を私たちが取材し、編集作業をし、地域の各戸に配布させて頂いています。是非、ご家族で見たいと思っています。意外と知らないだけで磯尾って色々動いているんですね。この瓦版をきっかけに世間話が弾み、人の繋がりが広がっていけば幸いです。

プロフィール 山本 尚路（やまもと なおみち） 磯尾出身

山本興太郎の孫であり、隆司の息子。
移動式クレーン・玉掛け・小型重機の免許所有。
実は、スキューバダイビングや野外救急の国際免許、幼児向けの救急免許も所有していた。
現在、仕事をしながら滋賀県立大学の大学院で「まちづくり担い手育成プログラム」を受講中。
学生生活が全てリモートで終わりそうで少々不安。地域のことをつぶやいているインスタもしてます！



<本誌へのご意見・ご感想は kouka.muralabo@gmail.com まで>